

企業の社会的責任

ヤマトグループは、事業の収益性のみならず、公共性の高い企業グループとして公正に経営していくことが企業の永続的な発展の大前提であると認識しています。

事業の原点として位置付ける「グループ企業理念」に沿って、あらゆるステークホルダーに対し、「安全」「環境」「社会」の各側面から積極的なCSR活動を展開することで、社会から一番愛され信頼される会社となることを目指します。

〈安全〉

生活道路を使わせていただき事業を行うヤマトグループにとって、地域の皆様の安全・安心の確保は何よりも大切です。「安全第一、営業第二」の理念の下、安全運転に努め、輸送の安全を図る施策に注力し、業務上のいかなる時にも人命の尊重を最優先いたします。

2014年3月期の主な実績と成果

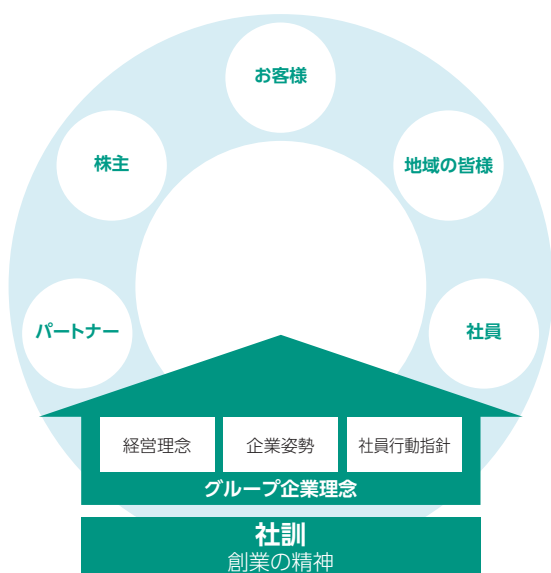
•「See-T Navi」を集配車両に導入

2010年3月に開発・導入した、ヤマト運輸株式会社独自の安全・エコナビゲーションシステムです。運転の細部までデータ化したことで、セールスドライバーが自分の運転を振り返って改善することができます。また、全国に配置された246名の安全対策の専門職である安全指導長により、データに則った個別指導も可能となり、セールスドライバーの安全運転を強力にサポートしています。

•「ICカード免許証」を活用した運転免許証管理システムを構築

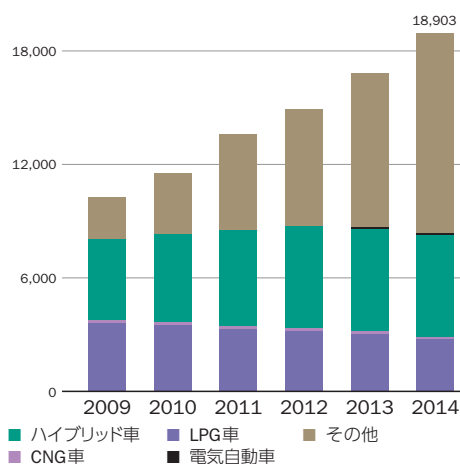
ヤマト運輸株式会社では、ドライバーの運行前に運転免許証等の目視確認に加え、ITを活用して運転者と運転免許証・車両区分をマッチングさせるシステムを構築しました。ITの側面から運行管理業務を支援してコンプライアンスを徹底しています。

「グループ企業理念」の構成図



低公害車累計保有台数の推移(ヤマト運輸)

(単位:台)



●安全大会「ドライバーコンテスト」の開催

安全意識と運転技術のさらなる向上を目指して安全大会「ドライバーコンテスト」を、国内だけでなく、海外においても、マレーシアヤマト運輸株式会社とシンガポールヤマト運輸株式会社において実施しています。

●車両の安全を守る

ヤマトオートワークス株式会社では、国内71整備工場のうち22拠点が作業効率を大幅に向上した24時間365日稼働の車両整備工場「スーパーワークス」になりました。また、整備士の840名のうち、約60%の530名が自動車検査員資格者です。

〈環境〉

ヤマトグループは、企業の社会的責任である環境保護活動を「ネコロジー」と総称し、環境を意識した事業活動とともに、社員一人ひとりが常に環境保護の意識を持って、日々の各業務に取り組みます。輸送の「包む」「運ぶ」「届ける」はもちろんのこと、その他の様々な取り組みを徹底的にエコロジー化して、環境にやさしい物流の仕組みを築きます。このような商品・サービスの提供を通じ、地域と共によりよい社会づくりに貢献する企業を目指します。

2014年3月期の主な実績と成果

●CO₂排出量の削減

ヤマトグループでは、台車や新スリーターを活用し、できるだけ車両を使用しない集配を追求する一方で、必要な車両については低公害車へのシフトを進めています。2014年3月期までに、約21,000台を導入し、全車両の41.5%となりました。

ヤマト運輸株式会社では、軽商用電気自動車約100台を2011～2012年にかけて導入しました。環境未来都市など環境に先進的に取り組む地域、世界遺産など環境への配慮が必要な地域を中心に、地方自治体と連携を図りながら導入を進めました。

サテライトセンターの出店は、セールスドライバー1人当たりの集配担当領域が小さくなることによってお客様に対するきめ細かいサービスが提供できるばかりでなく、荷物の増量に伴う車両台数の増加抑制効果もあります。一部に軽自動車を使用する以外は車両を全く使わず集配を行うサテライトセンターを、市街地や住宅密集地を中心に展開しています。

また、鉄道と海運を使用するモーダルシフトの推進や、他社との共同輸送により、輸送の効率化を図っています。



●クロネコヤマト環境教室

環境教室などを開催し、環境の大切さを伝えています。ヤマト運輸株式会社では、2014年3月期に241回開催し、20,700人の子どもたちが参加しました。

〈社会〉

ヤマトグループは、すべてのステークホルダーとの対話を大切にしながら、自分たちが果たすべき社会的責任を自覚し、社会と共に持続的に発展する企業を目指します。

また、事業や社会貢献活動を通じて、地域社会の抱える課題を共に解決していきます。

2014年3月期の主な実績と成果

●こども交通安全教室

こども交通安全教室は、1998年より地域のこどもたちに交通事故から身を守る知識を伝える場として、全国各地で開催しています。ヤマト運輸株式会社では、2014年3月期に全国で2,013回開催し、約22万4,000人のこどもたちが参加しました。日本だけでなく、海外においても実施しています。



●地域に根ざしたCSVの推進

企業が本業を通じて地域社会と共通の価値を創造するCSV (Creating Shared Value=共有価値の創造)という考えに基づいて、全国各地の自治体と連携しながら「高齢者の見守り支援」「買い物支援」「災害時緊急輸送支援」などを展開しており、それらを「プロジェクトG(ガバメント)」として、ヤマトグループ全体で推進しています。総案件数は550件を超え、自治体との協定締結数も約110件となりました。

●音楽宅急便「クロネコファミリーコンサート」を累計283回開催し、延べ約41万人が参加

●厚生労働省から「子育て支援に取り組む企業」として認定

2012年度3月期にヤマトシステム開発株式会社、2014年3月期にヤマト運輸株式会社、ヤマトロジスティクス株式会社が認定を受けました。

●障がい者の積極的雇用

ヤマトグループでは、公益財団法人ヤマト福祉財団を中心として、障がい者が自主的に働く喜びを実感できる社会を実現するために、様々な活動を推進しています。

パンの製造・販売を営むスワンペーカーリーにおける障がい者の積極的な雇用や、クロネコメール便の委託配達を通じた働く場の提供、就労に必要な技術や知識の訓練を行う就労支援施設の運営など、障がい者の経済的自立を支援しています。

